

しいたけ発生後のホダ場等の管理

1 はじめに

梅雨時から夏場にかけては、古ホダの整理やホダ場・伏せ込み場の管理を行います。

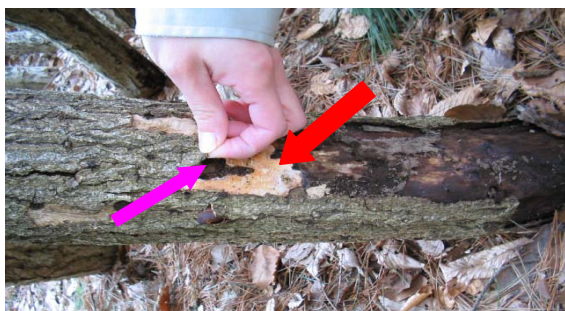
人工ホダ場では、この時期になると、天井部分から直射日光が差し込むことがありますので、日中の見回りや庇陰調整が必要な作業となります。

2 作業内容

(1) 古ホダの整理

古いホダ木でも樹皮がしっかりしているものは使用しますが、発生が見込めないホダ木は、ホダ場外へ搬出します。

古ホダからのきのこ発生可否の判断は、ホダ木の樹皮を少し剥いで、色で判断します。クリーム色(または薄いだいだい色)の場合には使用できますが、全体が黒い場合は、雑菌が侵入していますので廃棄してください。



写真—樹皮を剥いだところ

クリーム色の面(赤矢印)があれば発生が見込めます。黒い面(ピンク矢印)だけの場合には廃棄します。

(2) 天地返し・ホダ回し

ホダ場を整理した後は、次期発生に備えて、きのこが発生した面と発生していない面を入れ替える天地返しやホダ回しを行います。

この作業は、原基形成が盛んになる夏の終わりまでに終わらせます。

(3) 人工ホダ場の管理

人工ホダ場内で、ホダ木を管理する場合は、直射日光対策に重点をおきます。

直射日光が差し込むと、人工ホダ場内部は高温・乾燥状態になり、ホダ木が傷みやすくなりますので、この場合には遮光資材により庇陰調整を行います。

また、熱気がこもらないようにするため、出入り口等を開放して通風を良くします。

3 植菌後のホダ木の管理

伏せ込み場では以下の作業を行い、菌糸伸長を促進させます。

(1) 天地返し

伏せ込み場では、梅雨時に天地返しを行います。特に生木植菌した場合には、ホダ木上部と下部の水分状態がかたよっていますので、天地返しは必要な作業です。

作業は、ホダ木の表裏を入れ替えながら、接地面を上、上部を接地させます。

ホダ木が乾き気味の場合には低く伏せ込みます。過湿状態の場合には、通風を良くするため、ホダ木を高目に組み直します。

(2) 下刈り等の実施

通風が悪くホダ木が過湿状態にある伏せ込み場では、下刈りを行います。

伏せ込み場の通風が悪い場合には、直射日光の差し込み方に留意しながら、枝打ちや間伐を行い通風改善を図ります。

(3) 林孔の対策

豪雪や強風の影響などにより、伏せ込み場で林木が折損していることがありますが、このような場所では、林孔からの直射日光を防ぐため、伏せ込んでいるホダ木の上に灌木を切って載せます。

(担当：専門技術員 伊東茂敏、林産利用部 上席専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11 TEL 019-698-1337
岩手県林業技術センター FAX 019-697-1410
ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>